

四回目は十二月一日、「堀川御船蔵を見る」というテーマで、名古屋事務所展示室及び当時の面影が見られるお堀や水門などの施設を見学しました。

当日はあいにくの雨でしたが二十八人の方が参加され、悪天候のため詳しく現地での説明ができないことからプロジェクトを利用した説明を行った後、白鳥貨物駅跡、光星稲荷神社跡、叶橋跡、御船蔵跡、御材木奉行跡など十カ所を巡りました。

参加者からは当時の面影を残す数少ないクスノキの大木や水門の庇（橋桁下）を見て「よく残されたものだ！」と感嘆の声が聞かれました。

②熱田生涯学習センター

名古屋事務所が所在する熱田区には、熱田神宮を始め断夫山古墳や白鳥古墳、江戸時代に街道一の賑わいをみせたといわれる宿場の面影を残す七里の渡し船着き場跡など、歴史的文化遺産が数多く点在しており、これらの史跡を線で結ぶいくつかの史跡散策コースが紹介されています。（詳しくは熱田区HPで）

このほど、区内のボランティアガイド「熱田史跡ガイドの会」と熱田生涯学習センターが共催で「熱田の町を歩いてみよう！堀川沿いの史跡を巡る」というテーマでガイドツアーが催され、このツアーコースに名古屋事務所展示室が最終地点として組み込まれました。

見学コースは、源頼朝の出生地とされ

る「誓願寺」から日本武尊の御陵とされる「白鳥御陵」、東海地方最大の前方後円墳「断夫山古墳」や、木材市場発祥の地とされる白鳥御材木役所跡などを経て名古屋事務所展示室に至る八カ所の史跡・名所を一時半で巡りました。

当日は六十名の参加者があり、三十名ずつ二グループに分かれて、ボランティアガイドの案内により、史跡の解説を受けながらウォーキングしました。

参加者は、最終地点となった名古屋事務所展示室に到着すると木製椅子に座り疲れた身体を癒やしつつ、かつて水中貯木場であった名古屋事務所周辺の様子をパネル写真等を用いて説明する職員の声に耳を傾けていました。

また、説明後の自由見学では、「この展示は普段でも見ることができないの？」「今日は疲れたので後日じっくり見たい」などの問い合わせも多く、郷土の歴史を再発見した一日のようでした。



パネルを見学する参加者（名古屋事務所展示室）

なお、三月には熱田区や地域団体がスマホアプリを利用したスタンプラリー大会「熱田ぐるりんウォーキング」を開催することとしており、当展示室もコースに登録されました。

詳しくはこちら↓<http://758rekihi.com/>
また、来年度は実際に山へ向けて、国有林の現地見学会を予定しています。

次世代架線集材勉強会

【資源活用課】十二月十六日、次の世代に引き継ぐべき安全で効率的な架線集材技術の推進を図るため、「次世代架線集材勉強会」（主催 中部森林管理局、共催 長野林政協議会、後援 長野県）を中部森林管理局大会議室において開催し、満席となる百四十六名（林業事業者及び長野県関係者九十四名を含む）が参加しました。

現在、中部森林管理局では森林作業道と高性能林業機械を活用した作業システム（車両系作業システム）の拡大に努めているところですが、管内には急傾斜等の理由により架線集材（架線系作業システム）に頼らざるを得ない箇所も多くあり、架線技術者の育成を含めた安全で効率的な架線集材技術の推進が求められています。

今回の勉強会では、この点で同じ課題を持つ長野県と中部森林管理局が連携して、架線集材のトップランナーとも言える高知県及び和歌山県から、高知県立森



勉強会の様子

林技術センター 山崎敏彦チーフと、株式会社井谿林産 井谿啓次代表取締役社長を講師にお招きし、先進的な取組事例等について講演をしていただきました。

勉強会の冒頭に奥田局長からは、森林資源の成熟、高性能林業機械の普及、大型製材工場及びバイオマス工場の建設状況等を踏まえ、林業再生に不可欠な生産性の向上に関係者が真正面から取り組むよう激励の挨拶がありました。

また、中村森林整備部長より、林野庁の新規事業である「次世代架線系林業機械開発等生産性向上事業」等を中心に、林野庁が目指している架線集材システムの将来像についての説明がされました。

続いて行われた講演の中で、高知県の山崎チーフからは、これからの架線集材のあり方について、高知県内で取り組まれている欧州製各種タワーヤード及び高性能搬器に加え、高知県の代名詞ともい

えるH型集材の使用事例等について説明があり、労働生産性の改善及び労働安全の確保を含め、実証データに基づいた大変参考になる話をさせていただきました。

次に、和歌山県の井裕社長からは、先進的な取り組みである油圧集材機の開発経緯と使用状況、更には今後の改良点等について動画を交えて話をいただいた。会場からはその操作性の良さに驚きの声が聞かれるなど、集材機の将来に夢が持てる講演内容でした。

林業の成長産業化あるいは森林・林業の再生に不可欠な木材搬出の低コスト化の第一歩は生産性の向上です。

今後は、安全で効率的な架線系作業システムの推進を含め、生産性の向上に向けた具体的な計画を策定し、局署等が林業事業者と一体となり、その実現に向けた各種取り組みを行うこととしていますので、関係者各位のご協力をお願い致します。

中部地区広域

原木流通協議会現地研修

「名古屋事務所」中部地区広域原木流通協議会（会長 鈴木和雄）は、一月十四（十五日、中津川市外において、現地研修を開催しました。

この研修会は平成二十六年当該補助事業の事業計画により行われたもので、テーマを「需要者のニーズに応じた素材生産技術向上研修」として、目的を「大

口需要者の求める原木規格にに応じて、適正な採材、仕分け、検寸のできる技術者を養成する」とこととして行われました。

研修会には協議会の管内から、森林組合関係者、原木市場関係者、国、県等から三十八名が集まり、国有林からも局、名古屋事務所、木曽署、東濃署、愛知所から八名が参加しました。

一日目の研修では、(株)東海木材相互市場大口市場において、「原木の流通戦略と原木仕分けについて」と題して、代表取締役社長 鈴木和雄氏からの講演とプレカット工場の見学、採材と仕分け方法の実技指導等を受けました。



東海木材相互市場での採材・仕分け研修

その後、中津川市へ移動し「合理的な原木流通のあり方」として座談会が行われ、座長に信州大学農学部 植木達人氏、基調講演に森の合板(協)斎藤強専務理

事、東白川製材(協)桂川恒裕営業課長から、組合が求める原木の品質・規格・仕分けの考え方等について講演を受け、意見交換を行いました。

意見交換の中では、市場関係者からは、「一月先の需要動向も読めない状況であるが、常に敏感に市況を把握する努力が必要」、「現場のオペレーター等に対して、採材等の研修会を行っている」、「システム販売による安定供給はありがたい」、「韓国への輸出も始めた。」など、会員間での様々な情報交換も行われ、有意義な座談会となりました。



中津川市内での座談会の様子

研修二日目は、森の合板(協)、東白川製材(協)の工場視察を行いました。森の合板(協)では、原木の入荷状況、樹種別の入荷割合、原木の貯材状況、製造ラインや原木・製品の搬入・出荷に一日往復七十台

近くのトレーラーが往来する様子を見学しました。また、東白川製材(協)では、製品段階でのスギノアカネトラカミキリによる食痕被害、虫害によるピンホール被害、胴折れ材などの製品を見学し、説明を受けました。

今回の現地研修は当協議会が発足し、初めての研修会となり、原木市場や製品生産現場からの意見をはじめ様々な意見交換を行うことができました。

当協議会において、川上から川下まで関係機関が連携し、こうした研修会を通じてバランスのとれた需要と供給、安定的な木材流通となるよう、引き続き取り組んでいく必要があると考えています。

各地からのたより

内閣府特命担当大臣表彰を

受賞！

「愛知森林管理事務所」平成二十六年十一月十九日、総理大臣官邸大ホールにおいて、平成二十六年「子どもと家族・若者応援団表彰」が執り行われ、当所が推薦した「特定非営利活動法人穂の国森づくりの会」が内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。農林水産省として唯一の表彰でした。

この表彰は、子ども・若者の健やかな成長に資することを目的に、その育成支援する活動及び子育て家族を支援する活動に顕著な功績があった企業、団体等に

対して内閣総理大臣及び内閣府特命担当大臣から表彰されるものです。

当会は、平成九年に会の発足後、平成十二年から小学校への出前授業や森林観察会を通じて、愛知県東三河地域の森林環境教育に十年以上寄与されています。

また、地元団体や関係機関と連携した教育活動の進め方や教育プログラムは、全国の先進事例として普及しており、その功績が高く評価され今回の受賞となりました。

「穂の国森づくりの会」は、ふれあいの森協定や森林教室の協働実施など、愛知所と大変関わりの深い団体であり、この度の受賞はとても嬉しく思います。愛知所として築きあげた関係を、今後更に発展していけるよう取り組んでいきたいと考えています。



受賞後の記念写真（中央：宮口所長）

平成二十六年年度

カラマツ林業等研究発表会

「南木曽支署」一月八日、長野県林業総合センター大研修室において「平成二十六年度カラマツ林業等研究発表会」が開催されました。

冒頭、主催者を代表し、カラマツ林業等研究会代表幹事の信州大学武田教授より「この会を、ただ研究発表を行うだけの会にせず新しい意見、考え方を提案していただき、それらを取り入れ時代、時勢に合わせ常に変化ができる会を目指したい。」という趣旨の挨拶があり、続いて五課題の研究発表がありました。

長野県林業大学校一年の高見沢さんからは、製材業界を中心にした視点から川上と川下の連携の必要性について、岩手県林業センターの中嶋主任専門研究員からは、高温セット処理による心持ち平角材の人工乾燥技術について、齋藤木材工業株式会社からは、カラマツ耐火集成材



発表を行う谷協森林官

を用いた木造大型建築物の可能性について、林業総合センター柴田技師からは、長野県内の高速道路における、木製遮音壁の開発と設置状況について発表がありました。

中部森林管理局からは南木曽支署谷協阿寺森林官が参加し、昨年度から実施しているコンテナ苗の普及に向けた取り組みについての研究成果を発表しました。発表終了後会場から、具体的な作業方法やコストについてなど今後の研究につながる意見や励ましの言葉をいただき、コンテナ苗に対する関心の高さが伺えました。

課題発表終了後に行われた意見交換会では、製材業者や行政関係者それぞれから、今後の林業に対する展望や方向性等について発言がありました。

また、参加者からは、生産事業や造林作業における適正コストの考え方などについて発言があり、活発な意見交換が行われました。

なお、今回の発表内容等については、長野県林業総合センターが発行する技術情報のカラマツ林業等研究会特集に掲載される予定です。

大沢野国有林内の

不法投棄ゴミ回収

「富山署」十二月十六日、名古屋林業土木協会富山支部会員の皆様の協力を受け、大沢野国有林内において不法投棄ゴミ



ゴミ回収の様子

ミ撤去作業を実施しました。大沢野国有林では以前からゴミの不法投棄が問題となっており、過去にも撤去作業を実施しています。今回は、署員十二名と名古屋林業土木協会富山支部会員五名の併せて十七名でゴミ撤去処理作業を全域にわたって実施しました。

投棄されているゴミは量が多く、積雪により埋まっているため、掘り出して取り除く必要がありました。降雨も相まったため、泥まみれになりながらの作業でした。このような悪条件でしたが、協会会員の皆様等の協力の下で作業が進められ、国有林内のゴミは撤去されていきました。今回の撤去作業の結果、コンテナ一杯分のゴミ約八mを撤去することができました。

今後は、看板の設置や地域への呼びかけによる不法投棄防止対策の実施ととも

に、「ゴミゼロの日」において、名古屋林業土木協会富山支部の皆様と合同で国有林野内の不法投棄ゴミの撤去を実施していく予定です。



「伊那谷総合治山事業所 中川治山事業所」

治山技術官 立邊真悟

中川治山事業所は、昭和三十六年六月に発生した伊那谷梅雨前線豪雨に起因する山地河川荒廃の早期復旧を図るため、災害の翌年、駒ヶ根市に開設されました。天竜川流域に降り続いた大雨は、山肌を削り取りながら土石流となり、支川をえぐるように天竜川まで流れ込みました。



甚大な被害となった三六災害

伊那谷を襲った土砂災害と大規模な河川氾濫は後に三六災害と呼ばれ地域経済と生活環境に甚大な被害を与えました。

特に、中川村四徳は八〇戸四〇〇名が生活していましたが、土砂災害等で七名が亡くなり六十一戸が全半壊したことから、集団移住を余儀なくされました。

このことから、長野県及び地元市町村の強い要請を受け、国による直轄治山事業を実施するため、駒ヶ根市、上伊那郡飯島町及び中川村、下伊那郡松川町の四市町村にまたがる約一一、八〇〇鈐の区域で復旧工事を進めてきました。



竜東地区の様子

昭和三十七年、事業所の開設と同時に三ヶ年の特殊緊急治山事業の当初計画を策定し、大きな被害が多発した竜東地区（天竜川の東側地域）の駒ヶ根市中沢、中川村大草・四徳において年間三十件を超える復旧治山工事が実行されました。

集中的に竜東地区の荒廃地復旧を進める中で、様々な工法の試験試工も実践



竜西地区の様子

し、技術開発にも努めてまいりました。

昭和四十年代後期から、駒ヶ岳の麓の竜西地区（天竜川の西側地域）においても、荒廃率の高かった駒ヶ根市の中田切地区、次いで飯島町の与田切地区、松川町と飯島町に接する前沢川地区の復旧治山工事が進められました。

施工実績は、竜東で溪間工三〇七基、山腹工二六一鈐、竜西で溪間工一三九基、山腹工九七鈐、資材運搬路五九一〇鈐です。

平成二十五年度末に開催された中川地区概成判定委員会において、全体計画に対する事業進捗率の達成度、各流域の荒廃率低下、山腹荒廃地の林地回復状況、溪流荒廃地の安定状況等を総合的に勘案し、概成として取り扱うことは差し支えないと判断されました。

中川治山事業所が開設されて半世紀、地域住民や工事に携わった方々、各関係

機関の協力のもと、三六災害当時の荒廃状況から緑豊かな森林へと復旧が成されました。

今年度をもちまして、中川地区民有林直轄治山事業は五十三年間の直轄事業を終え長野県に施設が移管されます。長年にわたり、ご理解ご協力をいただきました多くの皆様に感謝申し上げます。

人のういき

中部森林管理局人事

十二月三十一日付

▽退職（東濃署 森林技術員） 可知 勇

一月二十日付

▽休職（木曾署 森林技術員）

（平成二十七年三月三十一日まで更新）

牛丸政治

一月二十九日付

▽休職（木曾署 森林技術員）

（平成二十七年三月三十一日まで）

奥原 豊

二月九日付

▽育児休業（伊那谷総合治山事業所

一般職員）

（平成二十八年二月八日まで）

江崎陽介

行事・会議等の予定

◎治山・林道工事コンクール表彰式

3月6日 中部局



◆自然湖（しぜんこ）

昭和五十九年、「長野県西部地震」の際土石流が流れ込み、王滝川の流れがせき止められてできた湖です。

今でも立ち木が残り、毎年季節を問わず、絵を書く人や写真を撮る人が多く訪れます。

この自然湖では、誰でもすぐに乗れるカヌーを漕いで、歩くことでは味わえない風景を見ながら森林浴を楽しむツアーも開催されています。



冬の自然湖

アクセス方法

【自家用車】

中央自動車道中津川IC⇨国道十九号線
經由約一時間五〇分、長野自動車道塩尻IC⇨国道十九号線經由約一時間五〇分

◆清滝（きよたき）

御嶽山の三合目付近（田の原へ向かう途中）に「清滝（きよたき）」と「新滝（しんたき）」があります。清滝は高さ三十メートル、古くから滝行が行われることで知られています。昔、御嶽山に登るには「百日精進潔斎」（百日間修業をし、身を清める）をおこなわなければ、登拝は許されないと厳しい伝統がありました。

た。今でも、夏になると滝にうたれる信者さんの姿を見かけることがあります。冬になるとこの滝は、氷の柱となり、ライトアップされると氷の青さに目が奪われます。

また、新滝は滝の裏側からも見る事ができることから、「裏見滝」とも呼ばれています。



氷の柱となった清滝

アクセス方法

【自家用車】

中央自動車道中津川IC⇨国道十九号線經由約一時間五〇分、長野自動車道塩尻IC⇨国道十九号線經由約一時間五〇分

◆木曽へ泊まろう

平成二十六年九月二十七日に御嶽山が突然噴火し、多くの登山者が犠牲となりました。その影響で現在、王滝村を訪れる方が大幅に減少し、旅館業やサービス業は大きなダメージを負っています。

平成二十七年一月十九日に、これまでの火口から半径四キロ圏内としてきた警戒の必要な範囲を三キロ圏内に変更となり、「おんたけ2240スキー場」も二月下旬の開業に向けて準備を進めています。



開業準備が進むおんたけ2240スキー場

本スキー場は例年、ゴールデンウィークまで営業をしています。このほかの木曽地方のスキー場も雪が多く快適に楽しめます。

是非、木曽地方に足を運んでいただ



そば饅頭と木製品



木曽の地酒とすんぎ漬け

き、「木曽のそば」、「木曽牛」、「すんぎ漬け」などの地元ならではの美味しさを味わってみて下さい。また、木曽地方にある五つの酒蔵で仕込まれた日本酒も絶品です。

さらに、お帰りには、「そば饅頭」などのお菓子類や木曽の厳しい環境で育った木曽ヒノキ、天然サワラの木製品をお土産にいただけたら幸いです。